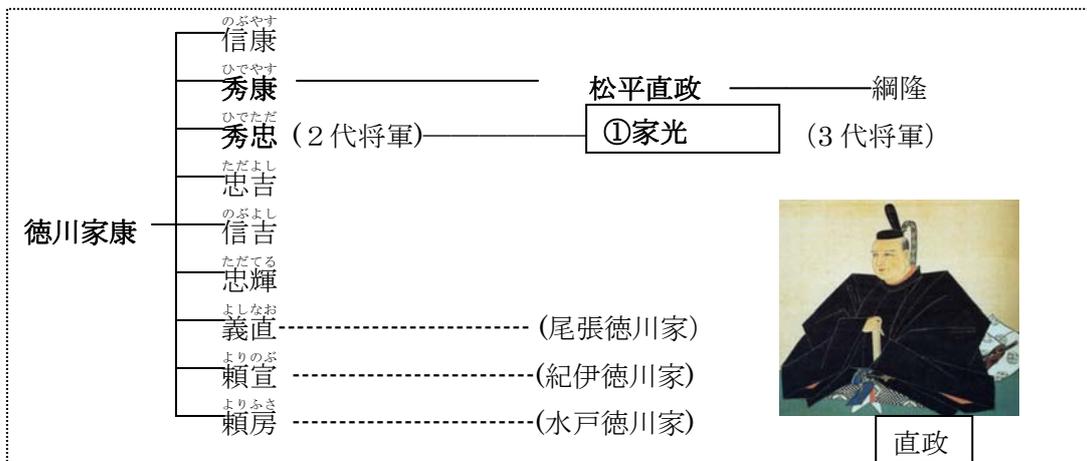


3 - 4 松本の城主 (1) 松平直政・堀田正盛

松本城管理事務所研究室

前の戸田氏の後、松本の領主として入封したのは松平直政でした。5年後、その後へ堀田正盛が入封しました。今回はこの二氏のことについておうかがいします。

1. 松平直政は越前大野から7万石で入封しました。彼は家康の孫に当たります。  に漢字で名前を入れ系図を完成しなさい。直政と①の方とは従兄弟に当たります。



- 2 松平直政のように徳川一門の大名で御三家・御三卿以外の大名をなんと呼びますか。②家門大名 あるいは「御」をつけて御家門大名と呼ぶ。
- 3 松平直政は錢座を松本につくりました。そこでつくられた寛永通宝は「松本錢」といわれました。そのことを記念して昭和43年「錢座記念碑」が建てられています。市内のどこにあるでしょう。 ③ 市民芸術館南側



寛永13年直政は幕府の特命を受け松本で寛永通宝を鑄造した。請元は今井勘右衛門、鑄工は三輪忠兵衛であった。錢座工場は鍋屋小路にあった。

幕府は寛永12年江戸・坂本で鑄錢を始め、寛永13年には水戸・仙台・吉田・松本・高田・長門・備前・備後・中川の9箇所に錢座を増設した。

- 4 次の和歌は直政が月を詠んだものですが、直政の和歌に○を付けなさい。(難問・14歳で大坂冬の陣が初陣の武人直政の和歌)

① いざよいの月をながめてしられける たれかは人のおい(老い)をのがれん

参考②寛文3年鳥丸大納言光広撰詠〔松本十景〕より

③紀貫之

- 5 松平直政は家康の孫という関係をうしろだてにして辰巳附櫓と月見櫓を増築しました。六九の  
厩<sup>うまや</sup>や八千俵蔵<sup>はっせんびょうくら</sup>も建てました。八千俵蔵は江戸幕府の備蓄用の<sup>びちくよう</sup> 粃が8000俵入る蔵でした。

この蔵は幕府が管理していました。凶作対策として米穀を備蓄する蔵を御城米蔵<sup>おしろまいくら</sup>とか城付米蔵と呼びましたが松本では八千俵蔵と呼びました。この備蓄粃8000俵は玄米にすると何石で  
しょう。(1石=10斗) ① 2000石

粃1俵は5斗入り。したがって粃俵<sup>だわら</sup>2つで粃一石<sup>いちこく</sup>。粃8000俵は粃4000石である。  
玄米にすると半分になる。これを<sup>ごんごうずり</sup>五合摺りという。(粃1升を玄米にすると5合になるの  
意)したがって4000÷2で2000石となる。

- 6 松平直政は寛永15年(1638)雲州松江<sup>うんしゅう</sup>(現、島根県松江市)に移りました。そのときの<sup>はいりょうだか</sup> 拝領高  
を答えなさい。 ③ 18万6000石

このほかに<sup>おき</sup> 隠岐島1万4000石を預かった。(御預領<sup>おあずかりりょう</sup>) 実質20万石の大名に大出世した。

- 7 堀田正盛は寛永15年(1638)武蔵国川越から10万石で松本に入部しました。  
(松本7万石+板鼻<sup>いたのはな</sup>3万石)幕府の老中をつとめたこともありました。彼が出  
世したのは彼の祖母が大奥で権力をもっていたからといわれます。堀田正  
盛の祖母(外祖母)は誰でしょう。 ②春日の局<sup>かすが つぼね</sup>



正盛は旗本堀田正吉の長男として慶長13年(1608)生まれた。母は稲  
葉<sup>まさなり</sup>正成の娘である。正成の後妻であった春日局は義理の外祖母に当たる。春日局は家光の  
乳母となり、家光の世継決定に尽力した。大奥を掌握したばかりでなく政治的な発言力も  
持ち老中堀田正盛・松平信綱らも年少のころから家光の側近につかえ、局の影響を受  
けて育った。春日局は3000石を領した。

- 8 堀田正盛は1回も松本に來なかつたといわれています。堀田時代に建てられた「蔵」はど  
れでしょう。 ③上土の米倉<sup>あげつち</sup>

- 9 正盛は松本在任中、若くしてなくなつた弟脇坂安利<sup>わきさかやすしとし</sup>の菩提<sup>とむら</sup>を弔うため松本に寺院を建てまし  
た。その寺院の名前を答えなさい。 ④恵光院<sup>えこういん</sup>

- 10 堀田正盛は入封すると領内村々から石高・人数・牛馬数を提出させたり、壇徒の訴えにより、  
日蓮宗本立寺を再興したりしました。寛永19年在任5年で11万石に加増されて

( )に移ります。( )内にあてはまる任地を選びなさい。 ④下総佐倉<sup>しもとうさ</sup>

堀田正盛は下総佐倉11万石に転封します。慶安4年(1651)家光が死ぬと殉死した。  
その子、正信は領内において過酷な年貢増徴をはかり、後に、正信改易と結びつけて「  
佐倉惣五郎<sup>さくらそうごろう</sup>」事件の伝承を生んだ。万治3年(1660)幕政批判により改易される。  
配流先は飯田及び阿波徳島。子、正休の家系は近江宮川1万石の大名として存続した。